

8

AUGUST
2006

[特集]

無限に広がる
スモールボートの世界

VALENCIA
LOUIS VUITTON ACT 11

4強、実力伯仲

アメリカズカップまで、あと1年

&1

Schlund + Partner • Sedo • twenty4help

GMX

[新艇紹介]

エックス35ワンデザイン
ヤマハ32コンバーチブル

[付録]

マリングッズカタログ
海遊びマップ・東日本(御前崎~北海道)
www.pacwow.com



[トピック]
ボルボ・オーシャンレース最終章
ナビゲーターズ・ガイド「三河湾・日間賀島」
世界周航中のパワーボート<アイドルワイルド>

ショートハンドで 気楽な相棒と付き合う

文・写真=安藤 健(本誌)
text & photos by Ken Ando (KAZI)

協力=名鉄西浦マリーナ



上:小人数でも気軽に海に出られるのが、やはりスモールクルーザーならではの魅力。準備や片付けが苦になるようなことはない
右:船内は左舷側に2人が座れる対面式のテーブル、右舷側には手前からトレイ、ギャレーが配置される。前方奥にある2カ所操船(オプション)用のコントロールボックスは、使わないときはスライドできる



東欧生まれの愛嬌者

国内で手に入れることができる20ft台前半までの大きさのセーリングクルーザーを考えると、選択肢はあまりにも少ない。輸入艇はまだしも、国産艇ではリュンドメ550(ニュージャパンヨット)のほかに数艇しか見当たらないという状況。いくら時代背景が違うとはいえ、かつて1980年代にはヤマハ21やブルーウォーターシリーズなど、さまざまな人気艇がひしめいていた小型国産艇市場を振り返ると、なんだか寂しい気もする。

小さな船には魅力がないのだろうか?いや、そんなことはないはずだ。クルマの

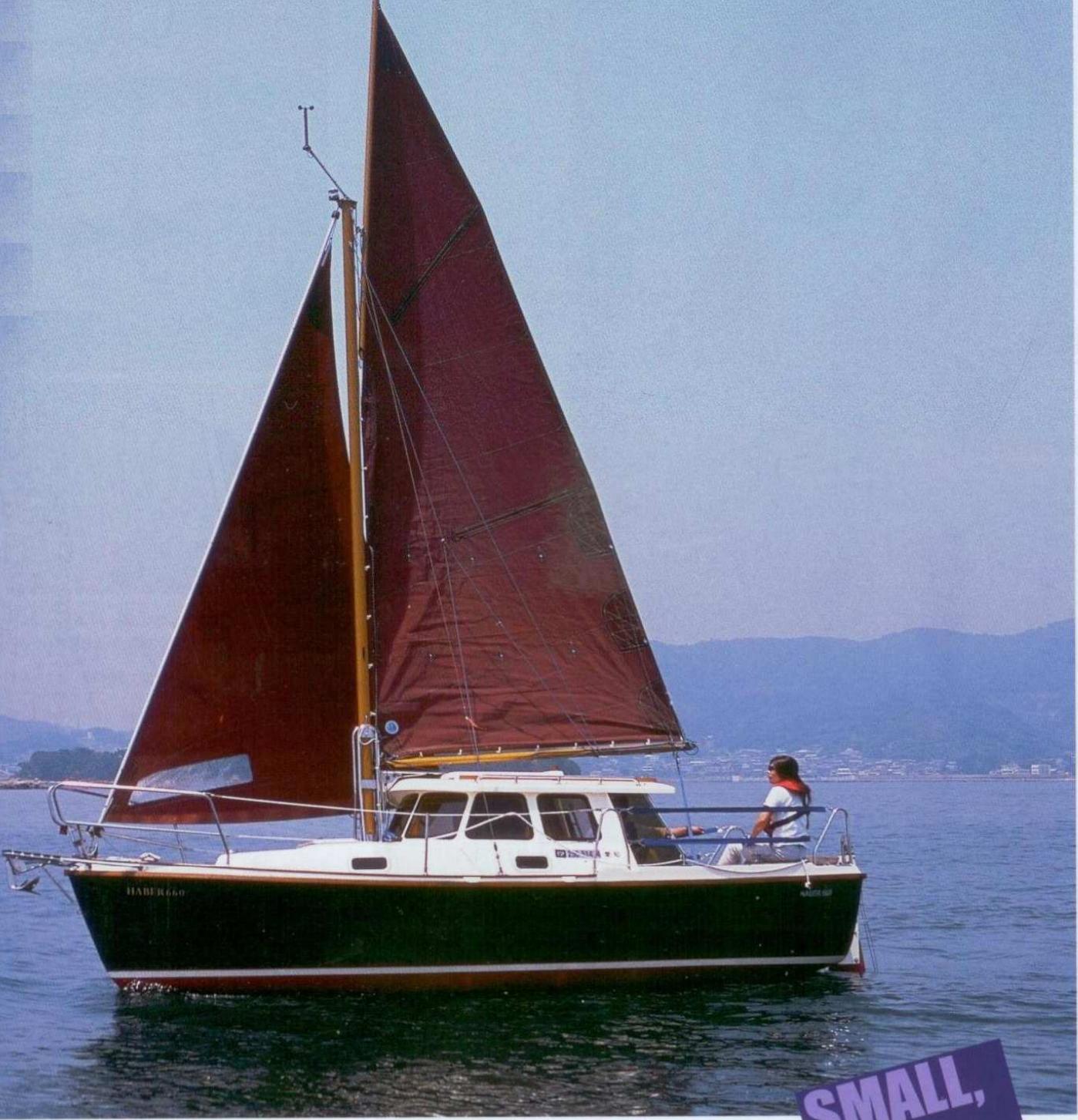
世界でスモールカーが1つのジャンルを確立しているのと同じように、欧米をはじめとする海外の水辺に目を向ければ、小さな船を愛する文化はしっかりと根付いている。

そこで、ハーバー660である。カタログでしか見たことがなかったが、モーターセラー風の愛らしい船体と洪い柿色のセールが印象に残り、一度はお目に掛かりたいと考えていた船だ。

同艇を造っているのは、ポーランドのヨットサービス社。クラシカルな風貌から、イギリスかアメリカ東海岸あたりの生まれのボートだと勝手に思い込んでいたこともあり、東欧の船だと知って少々驚いた。

同社のラインナップを見ると、ハーバーシリーズには660と800の2モデルを揃えるほか、木造船も建造している。モーターボートもオープンタイプやキャビン付きなど数モデルあるが、総じて全長8.80m以下のモデルばかりである。どうやら小型艇を得意とする造船所らしい。

日本での販売代理店を務める日本オービヨットによれば、今回紹介する660は、2000年のデビューから2006年5月末までに、すでに105艇が建造されたという。ポーランド国内での需要にとどまらず、ドイツやイギリス、オランダ、デンマークといったヨーロッパ諸国に加え、アメリカにも輸出されているとのこと。同社の人気モデルであつ



た580の後継艇という位置づけで、看板モデルとなっている。

湖から湖を巡る セーリングスタイル

ハーバーは「1人で簡単に操船でき、快適な長い航海が可能な、できる限り小さなサイズ」をコンセプトに造られたシリーズだ。こういったコンセプトを持つ船としては、フリッカ20やダナ24のようなオーシャンゴーキング艇が思い浮かぶが、ハーバー660のスタイリングはそれらとは明らかに方向性を異にする。その理由は、ポーランドのセーリング事情と大いに関係がある。

日本ではあまり知られていないが、ポーランドは非常に湖の多い国である。その数は9,000を超え、多くの国民たちが湖面で休日を過ごす。ハーバー660は、前述の基本コンセプトに加えて、湖や沿岸部で遊ぶことを意図して造られた船なのだ。

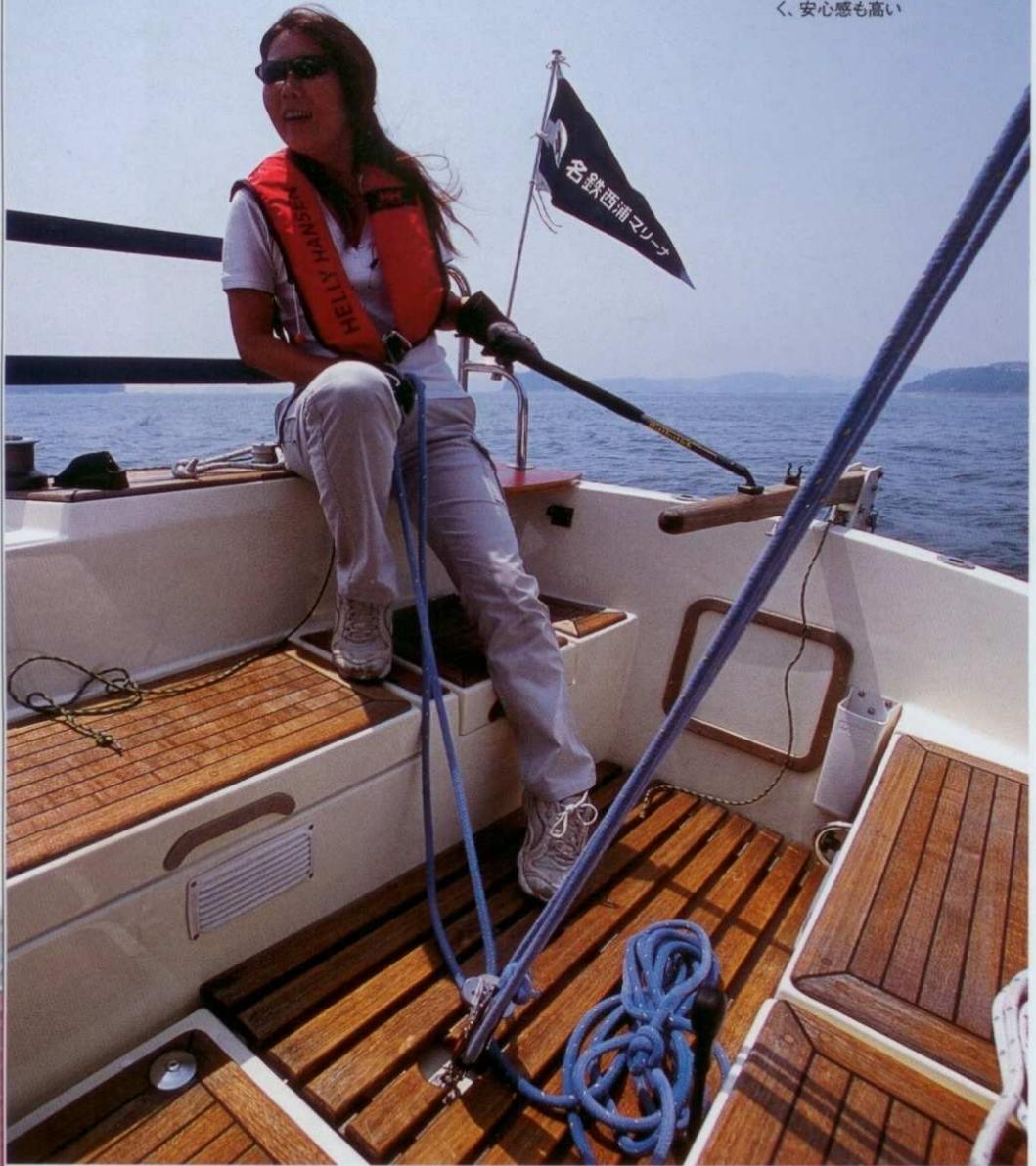
湖という囲まれた水域で遊ぶ場合、トレーラーでの移動も視野に入ってくる。その点を考慮し、マストは起倒式、リグはガントターリグ（ガフリゲのガフ部分が直立する）を採用している。このリグだとマスト高を低くできるというメリットがあるために、マストを倒したときにも、デッキ上でコンパクトに収納できるのだ。当然、マストが短い分だけ、起倒作業自体も簡単に行える。

**SMALL,
BUT
BIG FUN**

無限に広がる
スマールボート
の世界

周囲を美しい緑に囲まれた湖面をセーリングした後には、アンカリングしながらちょっと一息……なんて遊び方をしているのだろう。パウステップなどの造作は、少々立派すぎるくらいだ。船尾からアンカーを打ち、船首から出したロープを森の木の幹にくくるという風景が、今にも目に浮かんできそうだ。

風速5~6m/sのコンディションの中、クローズホールドで快走中。コーミングの角に板をはめ込んで、ヘルムスマンはそこに腰掛ける。掘り込んだような形状のコクピットは広く、安心感も多い。



上：左からシンクとアルコール式のコンロを備えたギャラースペース。お湯を沸かしてコーヒーを飲むくらいではもったいない設備だ。気が置けない仲間と船上料理を楽しむのもいい

下：船内をフルフラットにした状態。カタログには4人が寝られると記載されていたが、大人3人なら窮屈感を感じることなく横になれる。船は小さくともキャビンがあれば、遊びの幅も大きく広がる

また、660には固定式のキールではなく、センターボードが採用されている。センター ボードを上げたときの吃水はわずか40cm(通常は1.45m)だから、浅い場所にも進め、行動半径が広がるはずだ。ラダーもキックアップ式を採用している。

フラリと出られる気軽さ

国内では2号艇となるハーバー660は、三河湾の名鉄西浦マリーナに保管されていた。目と鼻の先に沖島と前島が浮かぶ、なかなかグッとくるロケーションである。

オーナーの木下 淳さんは、オールドソルト8M(横山 見氏設計)、コーニッシュ・クラバー24ときて、昨年ハーバー660に乗り換えた。仕事が多忙であるため、わずかな時間を作つては1人でマリーナに来るという木下さんのスタイルに、今度の船はぴたりと合致する。

「このサイズなら1人でも船を出すのがおくつうじゃないから、夕方やって来て1時間だけでもセーリングが楽しめます。たとえ海に出なくとも、船の中でのんびり過ごすのにもぴったりです」

木下さんがいうように、22ftの船とは思えないほど船内空間は広い。高いキャビ



マストは通常は根元から起倒する方式が多いが、この船ではゲースネック付近を支点にマストを起倒する。マストとフォアステイの根元にリードされたロープを調整しながら、1人でも簡単にマストが倒せた

ンハウスのおかげで、船内の高さは180cmを超えるので、圧迫感もない。

滞在型船上ライフを楽しむためのスペックは、広さだけに限ったものではない。たとえば、テーブルを格納すれば、コンパニオンウェイ下からバウバースまでフルフラットの空間ができる。さらに、個室トイレとギャレーまで備えているのだから、設備面では30ftクラスのセールボートにも見劣りしない。空間利用の粹ともいえるが、小人数で乗るのであれば小型艇でも不自由は感じないのだ。

走って、たたずんで 欲張り派も満足な実力

風速5~6m/s、晴れ渡った青空の下で海に出る。船を操るのは、国内3号艇となるハーバー660の納艇を約1カ月後に控える坂井由紀さん。今までクルーとしてヨットを楽しんでいたが、「1人で海に出たい」と一念発起して、この船を選んだ。

「もう少し大きなサイズの船も検討しましたが、自分の体力を考えるとやはり23ftくらいまでかなと。桟橋で1人で船を押さえていることもできませんからね。私は欲張りだから(笑)、セーリングもしたいし、住環境として快適に過ごせることも大切なポイントでした」

女性が1人でクルーザーヨットを操りたいとなれば、小型艇は当然の選択肢ともいえる。ハーバー660には電動ウインチが

付いているわけではないが、セールアップから操船、錨泊、さらにはマストの起倒作業に至るまで、坂井さんは無理なく1人でこなしていた。

さて、セーリング自体も楽しみたいというのが、彼女の要求の1つ。すんぐりむくにした特徴的な外観は、モーター・セーラー風。機走性能こそ期待できそうだが、帆走についてはどんなものか。

ところが海面を走ると、そんな心配はすぐに吹き飛んだ。鈍重な走りなどとはほど遠く、適度にウェザーヘルムを発生させながら海面を滑っていく。代理店の日本オーピーヨットによれば、風速12m/sほどのコンディションの中、大人2人が乗った状態でフルメインで安定して走れたというから、静かな湖面のみならず、厳しい海面でもたくましい走りを見せるようだ。



取材艇は2カ所操船も可能だったが(オプション)、大きな窓が多いので船内からの視界は十分

こうして見ると、ハーバー660は外見の愛らしさから興味を持たれがちだが、本当の魅力は、小さな体に詰め込まれたさまざまな要素にあるようだ。それでいて無理やり押し込んだという感じはない。

セーリングするもよし、船でのんびり過ごすもよし……。そんなセーラーの欲望を叶えるには、小ささが短所にはならず魅力になるということを認識させてくれる1艇である。

もうすぐ念願のヨットオーナー!

坂井由紀さん

36ftのクルージング艇のクルーとして、ヨットライフを楽しんでいた坂井由紀さん。しかし、オーナーがロングクルージングに出てしまったため、乗る船がなくなってしまった。前々からいすれは自分のヨットが欲しいと考えていたこともあり、思い切ってマイボートの購入を決めた。

「周囲からはエッ!と驚かれますが、マンションをローンで買ったりすることを考えれば、それほどのことでもありません。せっかくの機会なんだから、少々ほかを切り詰めても買ってしまえと(笑)。船

を選ぶときには、見た目も重要なポイントでした。ハーバー660は雰囲気そのものも気に入ったのですが、実際に乗ってみてびっくり。セーリング性能に不満はないし、それ以上に他の船ではできない、この船ならではの遊びができそうで、今から本当に納艇が楽しみです」

日本全国を船で旅するのが夢だという坂井さん。今までよりずっと近くに船のある暮らし、もうすぐ始まろうとしている。



HABER 660 [ハーバー660]

全長: 6.60m 全幅: 2.50m
吃水: 0.40m(センターボード降下時 1.45m)
セール面積: (メイン) 12.4m²、(ジェノア) 9.00m²
重量: 1,350kg バラスト重量: 350kg
価格: 船外機仕様: 4,704,000円、
船内機仕様(ヤンマー1GM): 6,232,800円

※価格は2006年5月20日現在のもの。ユーロの為替レートの変動によって変更となります。

(問)日本オーピーヨット

TEL: 072-244-1139

<http://www.op-yachts.com/>



小さな入江にアンカーを打って、しばしのティータイム。自分だけの世界が広がる時間だ。この辺りの水深は3mほどだが、センター・ボートを上げられるので、まだまだ奥まで進めそうだ